

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者） 一般レストラン（スタッフ）	・防寒コートを中心とした年末商戦と、秋口から新しい店がオープンするとあって人出がかなり見込まれる。 ・航空券のバーゲン割引などが多彩になったことで、個人、家族連れがますます旅行しやすくなり、観光の来客数が増える。
	変わらない	商店街（代表者） 一般小売店〔土産〕（店員） 百貨店（売場主任） 百貨店（売場主任） 百貨店（販売促進担当） コンビニ（エリア担当） コンビニ（店長） 衣料品専門店（店長） 衣料品専門店（店長） 衣料品専門店（店員） 家電量販店（店員） 乗用車販売店（従業員） 住関連専門店（営業担当） 高級レストラン（スタッフ） 一般レストラン（スタッフ） スナック（経営者） 観光型ホテル（経営者） 観光型ホテル（経営者）	・商店街の各店に販売促進のための策がなく、集客する仕掛けが少ない。また、客も守りの体制が変わらず、消費動向に変化がみられない。 ・全体的に低迷している傾向は先月から続いており、団体客が増えてこないため、購買量にも繋がらないことに加えて、価格の単価も低下したままであるため、今後も、まだ厳しい状況が続く。 ・引き続き状況は厳しいが、地下の食品売場のオープンを契機に来客数が増えており、それにともなって衣料品、雑貨関連のウエイトが少し上がっているため、今以上に良くなる可能性もあるが、全体としては変わらない。 ・これから冬物商戦が始まり、より単価の高い商品を販売していかなければならないが、客の値下げ待ち傾向が強く、大きな変化はない。 ・当店だけで見ると、競合店のリニューアルの影響を受け、状況が厳しくなることが予測されるが、市場の食い合いが進んでいる状況であり、業界全体では、現状維持の状態が予測される。 ・今月は連休が多く、また、天気も良かったので、商品の売上が8月に比べて大幅に上昇している。このような状況が続けば先が期待できるが、逆にいえば、天気が悪ければわからない。 ・客単価が好調時の水準に戻って、初めて景気回復といえる。客数は良い方向に向かってはいるが、買物点数をみると必要最小限のものであり、現状維持が精一杯といえる。 ・客との対話のなかから、今後、買物を増やすという雰囲気を感じられない。 ・徐々に単価が上昇しているが、売上に大きな変化はみられない。 ・2、3か月先になれば、ウールのコートなど、より単価の高いものが動くと思われるが、単価の高いものであれば、購入者の数が多く望めないため、売上の伸びはあまり変わらない。 ・10月、11月の気温が下がれば、暖房機の動きが良くなるが、気候に左右される。 ・2000ccクラスの自動車の販売台数が前年より減少しているなど、小型車への移行が感じられ、全体の売上が伸びない。 ・チラシで価格訴求をしても、物は売れないなど、買い控えの傾向が出ている。 ・前年の同時期と比較して、10月の予約は順調だが、11月の予約は前年より減少している。 ・雇用が不安定なため、買い控えが続いており、また、外食をする頻度も低迷している。 ・最近は接待や宴会がとても少なくなっており、売上も今まで以上には伸びない。 ・個人も企業と同様に、支出を絞り込む傾向にあり、比較的、波が緩やかであった観光・レジャー支出も例外でなく、利用者の賢明な選択の結果、より堅実な消費性向になることが想定される。贅沢を回避し、自然探勝、健康志向には、あまりお金を使わない、という考え方が定着しつつあるように感じられる。 ・ここ半年の動きをみると、サッカーワールドカップがあった今年の6月は別だが、前年の同時期とほとんど変わらない動きをしていることに加えて、営業環境に変化を与えるような様々な良い要素、悪い要素が、こう着した状態で推移することが想定されるため、大きな変化はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・乗客数は好調であるが、国内旅行、海外旅行ともに価格にこだわる傾向は一層強くなっており、販売収益と客数が比例していない。
		住宅販売会社（従業員）	・宅地の値下がり止まらないことに加えて、全体的なムードが良くならないため、ハウスメーカーは厳しい状況が続くことが想定される。
	やや悪くなる	スーパー（店長）	・今年の夏物商戦でもみられたように、低単価商品中心の動きであり、こうした状況を考えると、冬物衣料についても苦戦が想定される。
		スーパー（企画担当）	・雇用や所得の将来不安から、客の慎重な購買動向が続いており、年末にかけて最悪の状況になっている可能性もある。
		コンビニ（エリア担当）	・公共工事の動きが鈍いため、建設関係の客の来店が減ってくると思われる。年末に向けその傾向は強まることが想定される。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・気軽に店の中を回遊されていた客層が、全くみられない状態になっており、楽しくショッピングという雰囲気が感じられない。
		通信会社（企画担当）	・公務員の給料が下がるなど、個人の使えるお金がどんどん減ることが想定されるため、携帯電話を売ることが非常に難しくなることが想定される。
		パチンコ店（店員）	・他店舗も同様であるが、夜の来客数の減少が目立つようになっており、減少する時間帯も徐々に早くなってきている。
	悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・現状の客単価の落ち込みから判断すると、これから年末に向け、単価の高い予約商品の予約が取れないと思われる。
		スナック（経営者）	・地元の景気の悪さということもあり、今まで来てた地元の多くの客が、秋になり、かなり減っている。特に、周辺の飲食店街では減っており、これから先は、さらに厳しくなると予想される。
旅行代理店（従業員）		・受注状況が相変わらず良くない状況であり、経費支出の抑制が厳しくなるとともに、ボーナスも期待薄の状況であり、身近な景気は悪化の一途をたどりそうである。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送業（営業担当）	・農産物の出来が良好であり、特に、ピートと馬鈴薯の出荷増が期待される。
		通信業（営業担当）	・国のIT政策が進行していることから、それともなう周辺派生ビジネスの問い合わせなどが増えており、大きくではないが景気を上昇させる感じがある。
		通信業（営業担当）	・受注価格は上向いてはいないが、全般的に投資意欲が出てきている感じがあり、受注量自体が上向きとなっている。こうした状態がしばらく継続すると想定される。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・先月から引き続き、機械の出庫や返却が活発である。
	変わらない	家具製造業（経営者）	・外的環境が厳しく、販売量はマイナスになると思われるが、いわゆる高級商材、高額商品については、底固い動きが継続していく。
	やや悪くなる	金属製品製造業（統括）	・暖房機器に関する、建設設備工事の発注は大方終了し、これからは住宅の着工棟数に受注額が左右されるが、住宅着工は厳しい見方が業界の大勢である。
	悪くなる	建設業（経営者）	・公共工事については、ほとんど発注が終わっているため、新規の受注が見込めず、手持ち工事も減少する。また、民間工事についても、引き合いが減少する。
		輸送業（支店長）	・建築物件の受注動向は、通常2、3か月先まで把握できるが、現時点では、第4四半期の未工物件が、第3四半期より大幅に落ち込むことが想定され、各メーカーとも工場の稼働を落とす対策を始めている。
		その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	・現状の見積から判断すると、秋口の受注量は春先の3割減で推移すると見込まれる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・全般的な求人動向が緩やかに増えており、特に、期間工的な業種の動向が良い方に現れている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・ここ数か月、国の情勢として、雇用に関する特別な動きがあったことがなく、また、来年度に向けての予算の提案事項で、建設費関係の大幅な削減がいわれているため、北海道において影響の大きい建設関係の動向が上向きにならない。
求人情報誌製作会社（編集者）		・求人数の増加は、パート、アルバイトなど、臨時的な要素によるものが多く、正社員の回復が見込まれていない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・十勝の農業は全体的に豊作であり、明るい話題であるが、消費動向は低迷しており、業種別では乗用車の売れ行きが落ちている。
		職業安定所(職員)	・新規求人数及び月間求人数とも変化はなく、今後も求人の増加が見込まれない。在職中の求職者だけでなく、これまで職についていなかった人の求職が目立っている。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	職業安定所(職員)	・建設業、サービス業での解雇が続いており、今後も、雇用継続が困難であるとの話が出ている。